

日本語教育インターンシップ・プログラム報告書



岡林綾菜

峪口有香子

派遣先：韓国（ソウル）・国民大学

派遣期間：3月8日～3月26日



費用

航空運賃：約 60000 円

保険：約 5000 円

宿泊費：約 60000 円

生活費(食費・交通費など)：約 25000 円

合計：約 150000 円(うち、航空運賃、保険、宿泊費は国際交流基金から支援してもらった)

(120 ウォン≒10 円 2010/3/7 現在)

1.受入機関の状況

(1) 現地受入大学名：国民大学

(2) 日本語教師数：3人

(3) クラス数と日本語学習者数：6クラス(初級2クラス28人、中・上級 会話2クラス33人、文法2クラス37人)

月	火	水	木	金
8日	9日 日本語3会話×2 日本語3文法×2	10日 東アジア現代日本	11日 日本語3文法	12日 日本語3文法 日本語3会話
15日 東アジア現代日本	16日 日本語3会話×2 日本語3文法×2	17日 東アジア現代日本	18日 日本語3文法	19日 日本語3文法 日本語3会話 日本語初級
22日 東アジア現代日本	23日 日本語3会話×2 日本語3文法×2	24日 東アジア現代日本 日本語初級	25日 日本語3文法	26日 日本語3文法 日本語3会話 日本語初級

1コマ75分授業

2. 担当した授業の状況

・日本語初級

(1) 実習を担当したクラス：日本語初級

(2) 生徒数：14人

(3) レベル（日本語能力）：初級

(4) 担当した授業の内容

使用教材：教科書と折り紙

担当時間数とコマ数：実習は1時間15分、見学は2時間30分、コマ数は3コマ

授業前の準備：教案の作成



(5) 準備・授業・感想

新学期が始まったばかりで挨拶や自己紹介などを学習したばかりのクラスだったため、授業自体のスピードもゆっくりでした。担当の先生からは「い形容詞」についての授業をお願いされました。日本の文化に触れながら楽しく「い形容詞」を学んでもらおうと考え、折り紙を準備しました。

実際に授業を行ってみてよかった点は、折り紙で鶴を折るという作業をしながら楽しく活気のある授業ができたことです。悪かった点は、話すスピードが速かったことと折り紙を折る上で難しい作業がある鶴を選んだことです。そのため、作業が遅れている学生に付きっきりになってしまうことがありました。もう少し簡単な折り方のものを選べばよかったと思いました。

・日本語の会話

(1) 実習を担当したクラス：日本語の会話①、②

(2) 生徒数：①19人、②14人

(3) レベル（日本語能力）：中・上級レベル

(4) 担当した授業の内容

使用教材：プリント、写真



担当時間数とコマ数：実習は3時間45分、見学は7時間30分、コマ数は9コマ
授業前の準備：写真、方言について教案の作成

(5) 準備・授業・感想

二週間見学させていただき、学生たちのほとんどが日本を訪れたことがあり、日本の文化について知っていることが多いということがわかりました。実習は何をしてもよいということだったので、学生たちにどのようなことに興味・関心があるか尋ねてみました。その結果、方言について学びたいという声が多かったため、私が普段話している土佐弁について授業をすることにしました。会話の授業でしたが、いきなり土佐弁といっても馴染みがないため、高知県について紹介した上で土佐弁の会話練習をしました。

授業を行ってみてよかった点は、共通語や関西弁とは違ったことばやアクセントがあるということを楽しく教えることができたことです。悪かった点は、土佐弁のアクセントではなく違った発音をした時に何度も繰り返し正しいアクセントで発音したが、学生にはどこがどう違うのかが伝わらなかったことです。ただ、正しい発音をするのではなく、どこがどう違うのかを指摘することが重要だと思いました。

・日本語の文法

(1) 実習を担当したクラス：日本語の文法①、②

(2) 生徒数：①19人、②18人

(3) レベル（日本語能力）：中・上級レベル

(4) 担当した授業の内容

使用教材：プリント

担当時間数とコマ数：実習は5時間、見学は15時間、コマ数は12コマ

授業前の準備：買い物の時に使うことばについて、色や柄を表す時に使うことばについて、あげる・くれる・もらうについて教案の作成、練習プリントの作成



(5) 準備・授業・感想

授業内容は自分で決めることができたので、「買い物の時に使う表現」や「色や柄を表す時に使う表現」といった語彙を増やす授業と、韓国人にとって難しいといわれている「あげる・くれる・もらう」についての授業をしました。語彙を増やす授業では、既出の単語の意味は出来るだけ学生に言わせ、理解できているか確認しながら授業を進めることを心

掛けました。授業を行ってみてよかった点は、学生一人一人が発言できるように質問したこと、場面を設定し、実践的な学習ができたことです。悪かった点は、辞書で調べたことばをそのまま使ってしまい、説明が難しくなり、学生が理解できていないことがありました。辞書のことばをそのまま使うのではなく、自分のことばに置き換えて説明することが重要だと思いました。

4. 授業以外の活動状況

日付：3月10日、3月15日、3月17日、3月22日、3月24日の2限目（10：30～11：45）

活動内容：日本の社会問題について日本語でディスカッションする授業を受講

実施場所：国民大学

日付：3月13日、3月14日、3月20日

活動内容：観光、学生との交流

実施場所：ソウル市内

・学生との交流活動

授業を見学したり、受講したりしていくにつれて学生と仲良くなれました。授業のある日は学生と昼食を食べ、韓国の文化や習慣について教えてもらいました。また、授業のない日は、ソウル市内を案内してもらい、ナムサンタワーやミョンドンなどを観光しました。

5. 生活

宿泊は大学構内にあるゲストハウスに宿泊しました。部屋はワンルームでキッチン、二段ベッド、冷蔵庫、電子レンジ、エアコン、オンドル、シャワー、トイレ、洗面台、クローゼット、本棚、下駄箱がありました。インターネットも出来るようになっていました。洗濯機、乾燥機は共同ですが、何台かあり自由に使えました。テレビは部屋になく、洗濯機と乾燥機があるところが娛樂室のようにしているのでそこで見ることができます。お湯や飲み水も娛樂室にありました。韓国の3月は雪が降る日もあり、外はとても寒いですが、部屋の中はオンドルがあるので暖かいです。3週間で38万ウォン(約6万円)でした。

大学はソウル市の北部にあります。大学の最寄り駅は吉音駅で大学前のバス停から約15分70円で行けます。吉音駅から観光やショッピングなどができる中心部まで地下鉄だと20分ほどで行くことができます。バスや地下鉄を利用する際は交通カードを利用すると便利で安くなります。チャージする時も日本語の案内付きの機械で出来るので簡単です。

私たちが苦勞したのは食べ物でした。日本の「辛い」は韓国では「辛くない」に当てはまります。最初は大丈夫でしたが、刺激物ばかりなので日本の味が恋しくなり、実習の2週間目からは自炊しました。大学の周りはスーパーがなく、少し不便でしたが、ゲストハウスの裏に食堂やコンビニなどがあり、少し歩いたところにはファミリーマートや肉屋、八

百屋のような店もありました。

6. 感想

すべての実習を通して感じたことは、実際の授業は模擬授業のように教案通りにはいかないし、同じ内容の授業でもクラスが変われば反応や授業の雰囲気が違うということです。ある程度の反応や質問に対する答えは想像して授業に臨みましたが、全く予想していない反応や答えが返ってくる時があり、うまく対処出来ないことがありました。これは実際に教えてみないとわからないことだったのでよい経験になりました。

授業以外の活動で最も印象深かったことは、挨拶程度しか韓国語が話せない私が不自由なく生活できたことです。これは、昼食を一緒に食べてくれた学生や土曜日や日曜日にソウル市内の観光に誘ってくれた学生たちがいたからです。私が韓国語を話せないので、日本語で一生懸命案内してくれたり、よく使う韓国語を教えてくれたりととても親切にしてくれました。また、教案や練習プリントを作成する際、大学内のパソコンの使い方や印刷の仕方など丁寧に教えてくれたり、学生証がないと図書館で本を借りることができないということを伝えると一緒に借りに行ってくれたりとてもよくしてもらいました。授業で関わることが少なかった初級クラスの学生たちもキャンパス内ですれ違った時は必ず向こうから声を掛けてきてくれ、辞書を使いながら話してくれました。韓国に行く前は韓国語を話せないことが不安でしたが、韓国人の親切や心遣いは言葉以上に伝わってきてとてもありがたかったです。言葉が多少通じなくても心は通じるということがわかり、言葉だけでなく気持ちが大事ということを感じました。

(岡林)

国民大学に研修について

3月8日から26日まで三週間J I Pの研修に行ってきました。国民大学は、韓国の首都であるソウルにあり、創立1946年の私立の大学です。この大学は、日本学科があり、日本語に興味のある学生が多かったです。まず、一週間目と二週間目は授業見学をしました。

月曜は、「東アジア現代日本」という、日本という社会を外から見つめ、ディスカッションをしていく授業に参加しました。言語は、日本語のみで行われており、テーマはそれぞれ日にちによって、異なり、レベルの高い授業でした。例えば、テーマは「食育について」「日本における時効制度について」「早期英語教育について」など必ず復習をしないといけない授業でした。この授業に参加して、日本についてもっと幅を広げて知識を深めたいと思いました。

日本語のクラスでは、上級クラスと初級クラスを見学し、三週目には教育実習をさせていただきました。クラスは、文法と会話の授業に分かれていました。国民大学の上級

クラスは、日本語のネイティブの先生が受け持たれており、レベルの高い授業をされていました。クラス内でも、学習者のレベルに差があるため、シラバスはなしで、授業をされていました。

三週目の教育実習では、日本から持ってきていたドラえもんを使った教材で授業の構成を考えました。導入では、漫画を使い、一コマ一コマを説明して、授業を進めて、文法につなげました。

会話の授業では、関西弁をしました。何度も繰り返したり、みんなで会話練習したりと、和やかな雰囲気ですべてを進めていこうと工夫しました。

初級クラスでは、やはり媒介語が必要で少し韓国語を交えて進めていきました。かるたを持ってきたので、かるたをしたりしました。すべての授業を終えたとき、学生一人一人に感想を書いてもらいました。緊張して、授業を進めてきただけに生徒の生の声を読み、感動しました。「関西弁めっちゃおもろい」など、感想も関西弁で記入してあったりと、暖かいメッセージが書いてありました。最後には、みんなと教室で記念撮影をしたりしました。

今回、韓国での三週間の教育実習で、日本語教育の現場に立ちたいと強く思いました。教壇に立ち、教えることは、プレッシャー但也有りますが、授業を通して学生との信頼関係もうまれ、やりがいのある仕事だと思いました。ぜひ、将来は日本語教員になりたいです。今回、国民大学で実習が出来、とてもいい経験になりました。今後になんかして、頑張りたいと思います。

(峪口)

